わかるトルコ政治

訳／小沢佳子　編集／ＢＢＩ編集部

「セゼル大統領と連立内閣」連載19回

新任した第10代共和国大統領アフメット・ネジデット・セゼルと第57代内閣の間に緊迫した空気が流れ始めた。
インフレ率も予想を上回る状況で、数々の難題を抱えたエジェヴィット首相と連立内閣。
今年あと３ヵ月を何とか乗り越えて欲しいもの！周囲の期待は高い。

各党のリーダー達

2000年11月10日現在
DSP+MHP+ANAP 連立内閣

Bülent ECEVİT
ビュレント・エジェヴィット
首相／DSP党首

DSP／デーセーペー
民主左派党
Demokratik Sol Partisi

Devlet BAHÇELİ
デヴレット・バフチェリ
副首相／MHP党首

MHP／メーヘーペー
民族主義行動党
Milliyetçi Hareket Partisi

Mesut YILMAZ
メスット・ユルマズ
ANAP党首

ANAP／アナップ
祖国党
Anavatan Partisi

Recai KUTAN
レジャイ・クタン
FP党首

FP／ファズィーレット
美徳党
Fazilet Partisi

Tansu ÇİLLER
タンス・チルレル
DYP党首

DYP／デーイェーペー
正道党
Doğru Yol Partisi

Ahmet Necdet SEZER
アフメット・ネジデット・セゼル
第10代共和国大統領
（元憲法裁判長）

セゼル大統領の法律講義

二〇〇〇年五月に着任後、数々の新風を政界に吹き込んだセゼル大統領は、憲法裁判長官出身。連立内閣総立っての推薦により就任した大統領であったが、かねてより危惧されていた「政治家出身でない大統領」と内閣との意見の相違が少しずつ表面化し始めた。

連立内閣が大統領に提出した法案に大統領が同意しなかったことに始まって、次第に与党内部から大統領への非難の声があがるようになったのだ。

そんな中、一〇月一日大統領セゼルは、国会に於いて強い口調で演説を行った。これは前大統領デミレルの一時間四五分の記録を四〇分破る長演説となった。（以下演説一部略）

・数々の問題は、法に従わない為に起る。法は国民の為にあると同時に、行政を行う者の為にもある。

・現状は、行政と法政のバランスが失われたことによる。大統領の役割は内閣の行政を防止することではない。法律に反しないようにさせることである。

・党内で民主主義を徹底すべきである。

・死刑制度は廃止されるべきである。

・宗教を政治に利用し、市民に不安を与えてはならない。政教分離の道を踏み外してはならない。

・トルコはヨーロッパである。ヨーロッパ共同体に正式加盟する為に必要なことはすべて行われなければならない。

野党はこぞって拍手をおくったが、与党からの反応はいま一つであった。

アルメニア法案

一〇月二〇日、アメリカの合衆国連邦議会において、「一九一五年から一九二三年にかけてトルコ東部アナトリア地方のアルメニア民族が多く殺された事件の責任がオスマントルコ政府にあるとされる法案」が、アメリカ合衆国連邦議会から降案された。

議会の二つの下院で可決され、代表委員会に持ち込まれたこの法案の降案の背景には、クリントン大統領が議長に差し出したとされる書状をはじめとして、この法案が議会民主主義に反するものとされることが大きく影響している。その他、ワシントンのトルコ大使館や他のトルコ外交機関も、この法案通過を阻止する為に、あらゆる限りの努力を尽くした。

法案が降案されたことは、トルコにとっては喜ばしいことであり、エジェヴィット首相は、「これはトルコの力の大きさと、アメリカ合衆国がトルコを

評価していることのあらわれである」とコメントした。またエジェヴィットは、法案を阻止する為に書状を書いたクリントンに対しても感謝状を送った。

さて、この法案とは、この時の事件で一五〇〇万人のアルメニア人がオスマントルコ政府によって殺されたことを主張し、毎年四月二四日の「民族虐殺を偲ぶ日」にこれを提示しようというものであった。

しかしトルコ側は、このアルメニア人達の主張を強く否定している。トルコの主張によると、第一次大戦と国内の内戦が同時に起こっていたこの時期、敵国と手を組んでいたアルメニア民族を、軍事上安全な地域に移住させたのだとしている。また、命を落としたアルメニア人の数も、決して一五〇〇万ではなく、実際は三〇万人近くであり、同様に同じだけのトルコ人もまた命を落としていると表明している。

アンカラ政府は、この議題を歴史家の調査に任せることを希望しており、この事件は、オスマン時代の古代文書館で、誰にでも公開されていることを付け加えている。

アメリカで強大な力を持ち、この法案を受け入れさせるために金銭的にも精神的にも莫大な努力をはらったアルメニア勢力にとっては、今回の降案は、大きな夢を打ち壊される結果となった。

一方、今日トルコ国内に在住する六万人ほどのアルメニア人たちの社会も、この問題がトルコとアルメニアの間で論議されるべきであるとし、他国の議会で持ち上げられることについては否定的な見解を示している。実際、現在トルコには、一〇七一年にトルコの支配下に入ったアルメニア民族の信仰宗教と社会活動を推進する総主教教会や、数々のアルメニア人学校、アルメニア正教会等が存在している。

それでは、なぜこの議題が今回この時期に、アメリカの連邦国政府議会に持ち上がったのだろうか？

これは、アメリカで新大統領選挙、上院議員選挙の日が近づいていたことが大きな原因であり、国内でかなりの数を占めるアルメニア人からの票を収集することが目的であった可能性が強いと見られている。

EU正式加盟への道

トルコは一九九九年一二月、ヘルシンキで行われたEU首脳会議で、加盟候補国として選出されたばかり。

その後、トルコのEU正式加盟実現に向けて要求されている事項と、実行しなければならない課題について、記されたEU加盟共同証書が一一月八日発表された。合計一六ページから成るこの書状において、EU側の要求する課題は、「短期間」「中期間」とする二つの部門に分かれている。

中でもトルコ政府側の注意を引く、二〇〇一年末までに解決されなければならないとされる「短期間」の課題の中でのいくつかを例に挙げると、「表現の自由について、憲法と法律の中での保障を強化すること」「死刑に関わる執行猶予期間を引き延ばすこと」「クルド語でのラジオ・テレビ放送の自由を妨害するような条件を廃止すること」等である。この書状には、証書発表の直前に「キプロス問題の解決に向けて大きな貢献をすること」という項目も付け加えられた。

「中期間」としての要求事項には「死刑の廃止」「軍の政治における役割を改めて位置づけること」等トルコにとって、より実行困難な課題が含まれている。

CHP党大会

二〇〇〇年十月一日から約一六ヶ月前の一九九九年四月一八日に行われた総選挙で、大敗退したCHPの当時の党首デニズ・バイカルは、辞職に追い込まれて、党首の座を降りた。もともとCHPは、トルコ建国の父アタトゥルクがつくった政党の流れを組む由緒正しい党であるにも関わらず、近年、その勢いをなくしていた。

今回の党首選挙には、デニズ・バイカルの他、バイカルの辞職後、CHP党首であったアルタン・オイメン、フェフミ・ギュネシ、セファ・スィルメンが出馬。結果、第三回目の投票により、バイカル五四三票、オイメン三五五票で、バイカルが約一六ヶ月ぶりに党首の座に帰り咲いた。党首着任の最初の演説ではバイカルは、「党の団結一致」を強調し、「言い争いは終った、これからはお互いがお互いを認めあって行かなければならない。党員みんなが手を取り合おう！」と呼びかけた。

CHP党首に返り咲いたデニズ・バイカル